

令和 7 年度以降の福井県教員育成指標について

1 令和 5 年度までの経緯

○平成 28 年度

- ・教育教育公務員特例法の改正による「校長および教員の職責、経験、適性等に応じて向上を図るべき資質・能力に関する指標」策定の義務化
- ・「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」の告示（文部科学省）

○平成 29 年度

- ・福井県教員育成協議会（以降「育成協議会」）を開催し、福井県教員育成指標（以降「指標」）を策定

○令和元年度

- ・教育大綱・教育振興基本計画の見直しを受け、育成協議会を開催し指標を見直し

○令和 3 年度

- ・育成協議会を開催し指標を見直し

○令和 4 年度

- ・「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」（以降「指針」）の改正（R4.8.31）を受け、育成協議会を開催し指標を見直し[※]
 ※再整理された資質・能力の 5 つの柱に合わせ一部追記・修正し、R5 指標を策定

〔資質・能力の 5 つの柱（**参考③** 参照）〕

- ・教職に必要な素養 ・学習指導 ・生徒指導
- ・特別な配慮や支援を必要とする子供への対応 ・ICT や情報・教育データの利活用

○令和 5 年度

- ・養護教諭、栄養教諭の指標を新規策定
- ・令和 6 年改訂予定の「教育に関する大綱」「教育振興基本計画」に合わせ、令和 7 年度版の指標から、5 つの柱に合わせた大幅な構成変更をかける方向性を確認
- ・幼稚園教諭・保育教諭の指標を策定する方向性を確認

2 令和 6 年度の進捗状況

（1）令和 7 年度（以降）指標〔案〕

- ・現行指標 **参考①** の構成や内容を大幅に見直し、令和 7 年度（以降）の指標〔案〕 **資料 3-1～5** を作成
 （作成時のポイントは次ページ（3）参照）
- ・指標の基本的な考え方と活用について示した現行の文章 **参考②** を大幅に見直し、本県指標の特徴と改訂の意図を中心に説明した文章 **資料 4** を作成
- ・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の指標を検討中
 （幼児教育施設関係団体等との情報共有・調整等に時間が必要）

（2）今後の予定

- 本協議会で大枠が承認されれば、いただいたご意見を基に、
- 1 月：研修関係者のワーキンググループで再協議・調整
 - 3 月：大学を含めた全県下の国公立学校に周知

(3) 令和7年度(以降)指標のポイント

【教諭用および管理職用共通】

○観点の再整理と指標の具体性検討等によるスリム化

観点を再整理することで漏れや重なりを回避し、併せて、各資質・能力を具体的すぎず汎用性のあるものにすることで全体をスリム化(今後のビルド&ビルドの回避策にも)

○教諭用・管理職用の統合版〔案A〕と分離版〔案B〕の併用

教諭用・管理職用を統合した〔案A:資料3-1〕を基本とし、用途に応じて教諭用・管理職用を分離した〔案B:資料3-2,3〕を使用

【教諭用】

○観点の再整理

<指針で示された5つの柱に準拠した観点>

「教職に必要な素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」

<福井県独自の観点>

「ふくいのかち」・・・福井県が大切にする資質・能力の強調

○協働の重視

全体のスリム化を進めながらも、幅広い人々との協働の重要性を示す項目や資質・能力を位置付け

【管理職用】

○観点の再整理

現行の「素養」「学校経営者としての専門性」は維持し、教諭版から貫く形で「ふくいのかち」を追加

○素養の捉えの拡充と項目の再整理

マネジメントや外部との連携に関する力を、学校経営者としての専門性を支えるものとして「素養」に入れ、併せて、項目を再整理

<「素養」に入れる項目>

- ・教育者としての素養
- ・マネジメント能力
- ・アセスメント能力
- ・ファシリテーション能力

<「学校経営者としての専門性」に入れる項目>

- ・経営方針提示
- ・教育活動の推進
- ・組織づくり
- ・人材育成
- ・働き方改革の推進
- ・学校安全・危機管理
- ・財務管理

(4) 養護教諭用/栄養教諭用の構成

昨年度の新規策定時と同様、教諭版の「学習指導」の内容を、それぞれ養護教諭、栄養教諭の専門領域に置換え(内容は変更なし)



福井の教員が目指す育てたい人間像

○個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人

○多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

○ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人

福井が求める教師像

●校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

●専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

●子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

●教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

福井県教員育成指標

教諭		福井県が求める採用時の姿	第1ステージ 教員としての基盤を固める	第2ステージ 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	第3ステージ 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする	管理職	トップリーダーとして教育活動を推進する		
資質・能力に関する観点		資質・能力に関する観点		資質・能力に関する観点		資質・能力に関する観点			
素養	教育的愛情 使命感 責任感	・子どものウェルビーイングを高め、豊かな人間性を育む熱意 ・持続可能な社会の創り手を育成する使命感、責任感 ・子どもの命を守る安全教育・危機管理の理解				素養	教育者としての資質	・教育者としての素養を磨き、教職に関する見識を高める姿勢 ・学校教育の持続的改善に向けた保護者や地域、関係機関との信頼関係の構築	
	倫理観 人間性 社会性	・服務規律・法令の理解と遵守 ・確かな人権意識と豊かな人間性 ・多様性への理解と円滑なコミュニケーションによる良好な人間関係の構築					マネジメント能力	・明確な教育理念、状況に応じた的確な判断、迅速で合理的な決断 ・学校教育を取り巻く環境の変化への適応、教育資源の開発・活用	
	学び続ける力 探求心	・学校現場の実態や教育改革の動向の把握、社会の変化を前向きに受け止めよりよい教育活動を模索する態度 ・自らの実践を省察し、探究心をもって挑戦し続ける姿勢 ・学びの機会への積極的参加による新しい知識や多様な価値観の獲得と得意分野や強みの伸長					アセスメント能力	・内外環境に関する情報の収集・整理、データや理論に基づいた分析、関係者との共有 ・多様な人材の能力や特徴、価値観の理解と公正な評価	
	業務改善	・効率的な時間管理に対する意識	・精選・改善・創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と勤務時間の適正な管理 ・心身の健康、モチベーションを高めるワーク・ライフ・バランスの実現				ファシリテーション能力	・多様な専門性等を有する人材が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保 ・保護者や地域、関係機関や産業界等との折衝・協働による相互作用の促進	
	同僚性	・支え合い高め合う同僚性への理解 ・OJTや校内研修の意義の理解	・協働的活動への積極的参加による同僚性の構築 ・組織における自らの役割の理解と行動	・支え合い高め合う同僚性の構築、学び合う文化の醸成 ・OJTや校内研修の推進、若手教員への助言	・支え合い高め合う同僚性、学び合う組織づくりを牽引 ・組織マネジメントへの主体的な参画		学校経営者としての専門性	経営方針提示	・学校の置かれた状況や教育課題の把握と明確な経営ビジョンの提示 ・経営ビジョンの教職員との共有、地域や保護者への発信による連携・協働の促進
	連携・協働	・子どもや保護者と教職員の相互理解の重要性の理解	・保護者や地域との信頼関係の構築 ・学校内外の多様な人々との連携・協働、関係機関との連携を通じた課題解決への姿勢					教育活動の推進	・教育課程および教育活動の評価・改善と組織的な学校運営による特色ある学校づくり ・多様な子どもに対する個別最適な支援の工夫、多様な教育的ニーズへの組織的対応
	学習指導	教科等の専門性	・主体的・対話的で深い学びへの理解 ・子どもの資質・能力の育成に資する教科等に関する専門性	・教科等の見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現 ・教科等に関する専門性の向上と学習者中心の授業の創造					組織づくり
授業力		・子どもの多様な特性や学習状況に応じた授業展開への理解 ・探究的な学習の過程に即した学習活動・授業改善への理解	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた発問や視覚化等の工夫 ・指導と評価の一体化に基づく授業改善、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての授業実践力の向上	・子どもの学びを見取り、引き出し、つなぐ、ファシリテーション力 ・省察の実践サイクルの構築による探究的な学びの推進と授業実践力の向上	・子どもの主体性を尊重し、子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに作り上げる授業の工夫 ・省察と対話による授業実践力の向上、継続的な授業改善を牽引	人材育成		・教職員の自律的な成長や中核となる人材の育成を意識した業務の割当、適正な評価と指導・助言 ・教職員の自律的な学びを促す校内研修の推進 ・対話に基づく教職員の意欲の喚起とキャリアパスへの助言、一人ひとりに応じた研修等の受講奨励	
カリキュラム・マネジメント		・横断的・総合的な学習で育成される子どもの資質・能力の理解 ・社会や地域とつなげた教育活動の意義への理解	・学校の教育目標の把握とめざす子ども像を意識した授業づくり ・社会や地域とつなげた教育活動への参画	・学校の実態に応じた教科横断的な視点での教育課程の評価・改善 ・社会や地域とつなげた特色ある教育活動の提案	・学校の実態に応じた教科横断的な視点での組織的な教育活動を牽引 ・社会や地域とつなげる教育資源の開発・活用	働き方改革の推進		・学校・教員の業務の適正化、保護者や地域の理解を得るための取組 ・ワーク・ライフ・バランスの推進、教職員の勤務時間管理やメンタルヘルス確保等による労働安全衛生管理の実現	
生徒指導	子どもの発達を支える働きかけ	・子ども一人ひとりのよさや可能性を伸ばす姿勢 ・認め合い励まし合い支え合う集団づくりと個別の子どもの状況に応じた配慮への理解	・子ども一人ひとりへの共感的理解とよさや可能性を伸ばす姿勢、子どもの自己指導能力の獲得を目指した支援 ・子ども一人ひとりが自己存在感を感じ、個性を発揮できる相互扶助的で共感的な人間関係の育成と集団づくり ・子ども一人ひとりの自己実現やキャリアデザイン力の育成を目指した教育活動の充実			学校安全・危機管理		・服務規律・法令遵守の教職員への啓発と徹底 ・様々な危機に対する未然防止策の策定による組織体制の整備、保護者・地域・関係機関との協力関係の構築	
	課題の未然防止・早期発見 困難課題への対応	・課題未然防止教育の理解 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進	財務管理		・学校経営方針に基づく予算編成と執行による教育環境の整備・充実 ・事務職員と連携した組織的で適正な執行管理	
特別な配慮や支援	全ての子どもの安全・安心な居場所づくり	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまずきや困難の早期発見と適切な援助・指導						
	特別支援教育に関する専門性	・特別支援教育や障がいの特性、合理的配慮への理解 ・障がいに応じた支援に関する基本的な知識	・障がいの状態に応じた具体的な支援に関する知識・技能の習得 ・多様な教育的ニーズの把握と合理的配慮の提供	・特別支援教育に関する最新の知識の習得 ・個別的教育支援計画等に基づく連続性のある支援、保護者や関係機関との連携	・学校を取り巻く環境や特別支援教育に関する課題の把握と組織的な支援の調整				
ICT活用等	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解	・個別最適な学び・協働的な学びの実現による子どもの問題発見解決力・自己調整力の育成 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成						
	活用指導力の向上と教育活動の充実	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	・ICT活用指導力の向上とICTの特性や強みを活かした多様な学習形態や専門性の高い教育活動の実現 ・学習履歴や健康上・生徒指導上のデータ等の蓄積・利活用による学習支援・校務の効率化						
ふくいのか	引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解	・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進		・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫				
	「ふるさと福井」の教育	・福井の産業・歴史・文化等への理解	・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成		・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進				
	福井の教育の継承	・福井の教育をよりよくしていく心と態度	・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進		・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化				

※ 資質・能力に関する6つの観点「素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」「ふくいのか」は相互に関連し合っている。

福井の教員が目指す育てたい人間像

- 個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人
- 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
- ふるさとや自然を愛し、いつでもどこにいても社会や地域に貢献する人

福井が求める教師像

- 校種・教科等に関する専門的知識・実践的スキルを持った人
- 専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人
- 子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人
- 教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人



福井県教員育成指標

教諭		福井県が求める採用時の姿	第1ステージ 教員としての基盤を固める	第2ステージ 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	第3ステージ 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする
資質・能力に関する観点	教育的愛情 使命感 責任感	・子どものウェルビーイングを高め、豊かな人間性を育む熱意 ・持続可能な社会の創り手を育成する使命感、責任感 ・子どもの命を守る安全教育・危機管理の理解			
	倫理観 人間性 社会性	・服務規律・法令の理解と遵守 ・確かな人権意識と豊かな人間性 ・多様性への理解と円滑なコミュニケーションによる良好な人間関係の構築			
	学び続ける力 探求心	・学校現場の実態や教育改革の動向の把握、社会の変化を前向きに受け止めよりよい教育活動を模索する態度 ・自らの実践を省察し、探究心をもって挑戦し続ける姿勢 ・学びの機会への積極的参加による新しい知識や多様な価値観の獲得と得意分野や強みの伸長			
	業務改善	・効率的な時間管理に対する意識	・精選・改善・創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と勤務時間の適正な管理 ・心身の健康、モチベーションを高めるワーク・ライフ・バランスの実現		
	同僚性	・支え合い高め合う同僚性への理解 ・OJTや校内研修の意義の理解	・協働的活動への積極的参加による同僚性の構築 ・組織における自らの役割の理解と行動	・支え合い高め合う同僚性の構築、学び合う文化の醸成 ・OJTや校内研修の推進、若手教員への助言	・支え合い高め合う同僚性、学び合う組織づくりを牽引 ・組織マネジメントへの主体的な参画
	連携・協働	・子どもや保護者と教職員の相互理解の重要性の理解	・保護者や地域との信頼関係の構築 ・学校内外の多様な人々との連携・協働、関係機関との連携を通じた課題解決への姿勢		
学習指導	教科等の専門性	・主体的・対話的で深い学びへの理解 ・子どもの資質・能力の育成に資する教科等に関する専門性	・教科等の見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現 ・教科等に関する専門性の向上と学習者中心の授業の創造		
	授業力	・子どもの多様な特性や学習状況に応じた授業展開への理解 ・探究的な学習の過程に即した学習活動・授業改善への理解	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた発問や視覚化等の工夫 ・指導と評価の一体化に基づく授業改善、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての授業実践力の向上	・子どもの学びを見取り、引き出し、つなぐ、ファシリテーション力 ・省察的実践サイクルの構築による探究的な学びの推進と授業実践力の向上	・子どもの主体性を尊重し、子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに作り上げる授業の工夫 ・省察と対話による授業実践力の向上、継続的な授業改善を牽引
	カリキュラム・マネジメント	・横断的・総合的な学習で育成される子どもの資質・能力の理解 ・社会や地域とつなげた教育活動の意義への理解	・学校の教育目標の把握とめざす子ども像を意識した授業づくり ・社会や地域とつなげた教育活動への参画	・学校の実態に応じた教科横断的な視点での教育課程の評価・改善 ・社会や地域とつなげた特色ある教育活動の提案	・学校の実態に応じた教科横断的な視点での組織的な教育活動を牽引 ・社会や地域とつなげる教育資源の開発・活用
生徒指導	子どもの発達を支える働きかけ	・子ども一人ひとりのよさや可能性を伸ばす姿勢 ・認め合い励まし合い支え合う集団づくりと個別の子どもの状況に応じた配慮への理解	・子ども一人ひとりへの共感的理解とよさや可能性を伸ばす姿勢、子どもの自己指導能力の獲得を目指した支援 ・子ども一人ひとりが自己存在感を感じ、個性を発揮できる相互扶助的で共感的な人間関係の育成と集団づくり ・子ども一人ひとりの自己実現やキャリアデザイン力の育成を目指した教育活動の充実		
	課題の未然防止・早期発見 困難課題への対応	・課題未然防止教育の理解 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進
特別な配慮や支援	全ての子どもの安全・安心な居場所づくり	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまづきや困難の早期発見と適切な援助・指導		
	特別支援教育に関する専門性	・特別支援教育や障がいの特性、合理的配慮への理解 ・障がいに応じた支援に関する基本的な知識	・障がいの状態に応じた具体的な支援に関する知識・技能の習得 ・多様な教育的ニーズの把握と合理的配慮の提供	・特別支援教育に関する最新の知識の習得 ・個別の教育支援計画等に基づく連続性のある支援、保護者や関係機関との連携	・学校を取り巻く環境や特別支援教育に関する課題の把握と組織的な支援の調整
ICT活用等の	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解	・個別最適な学び・協働的な学びの実現による子どもの問題発見解決力・自己調整力の育成 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成		
	活用指導力の向上と教育活動の充実	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	・ICT活用指導力の向上とICTの特性や強みを活かした多様な学習形態や専門性の高い教育活動の実現 ・学習履歴や健康上・生徒指導上のデータ等の蓄積・利活用による学習支援・校務の効率化		
ふくいの力	引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解	・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進 ・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫		
	「ふるさと福井」の教育	・福井の産業・歴史・文化等への理解	・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成 ・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進		
	福井の教育の継承	・福井の教育をよりよくしていく心と態度	・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進 ・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化		

※ 資質・能力に関する6つの観点「素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」「ふくいの力」は相互に関連し合っている。

福井の教員が目指す育てたい人間像

- 個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人
- 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
- ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人



福井が求める教師像

- 校種・教科等に関する専門的知識・実践的スキルを持った人
- 専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人
- 子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人
- 教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

福井県教員育成指標

管理職		トップリーダーとして教育活動を推進する
資質・能力に関する観点		
素養	教育者としての資質	・教育者としての素養を磨き、教職に関する見識を高める姿勢 ・学校教育の持続的改善に向けた保護者や地域、関係機関との信頼関係の構築
	マネジメント能力	・明確な教育理念、状況に応じた的確な判断、迅速で合理的な決断 ・学校教育を取り巻く環境の変化への適応、教育資源の開発・活用
	アセスメント能力	・内外環境に関する情報の収集・整理、データや理論に基づいた分析、関係者との共有 ・多様な人材の能力や特徴、価値観の理解と公正な評価
	ファシリテーション能力	・多様な専門性等を有する人材が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保 ・保護者や地域、関係機関や産業界等との折衝・協働による相互作用の促進
学校経営者としての専門性	経営方針提示	・学校の置かれた状況や教育課題の把握と明確な経営ビジョンの提示 ・経営ビジョンの教職員との共有、地域や保護者への発信による連携・協働の促進
	教育活動の推進	・教育課程および教育活動の評価・改善と組織的な学校運営による特色ある学校づくり ・多様な子どもに対する個別最適な支援の工夫、多様な教育的ニーズへの組織的な対応
	組織づくり	・目標達成に向けた適切な校務分掌の設計、教職員の適性を生かした業務分担、役割の明確化 ・多様な専門性等を有する人材が強み等を生かして連携協働できる体制構築の工夫 ・教師同士の学び合いを促進する環境整備・雰囲気づくり
	人材育成	・教職員の自律的な成長や中核となる人材の育成を意識した業務の割当、適正な評価と指導・助言 ・教職員の自律的な学びを促す校内研修の推進 ・対話に基づく教職員の意欲の喚起とキャリアパスへの助言、一人一人に応じた研修等の受講奨励
	働き方改革の推進	・学校・教員の業務の適正化、保護者や地域の理解を得るための取組 ・ワーク・ライフ・バランスを推進し、教職員の勤務時間管理やメンタルヘルス確保等による労働安全衛生管理の実現
	学校安全・危機管理	・服務規律・法令遵守の教職員への啓発と徹底 ・様々な危機に対する未然防止策の策定による組織体制の整備、保護者・地域・関係機関との協力関係の構築
	財務管理	・学校経営方針に基づく予算編成と執行による教育環境の整備・充実 ・事務職員と連携した組織的で適正な執行管理
ふくいのか	引き出す教育・楽しむ教育	・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進 ・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫
	「ふるさと福井」の教育	・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成 ・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進
	福井の教育の継承	・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進 ・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化



福井の教員が目指す育てたい人間像

○個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人

○多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

○ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人

福井が求める教師像

●校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

●専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

●子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

●教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

福井県教員育成指標

養護教諭		福井県が求める採用時の姿	第1ステージ 教員としての基盤を固める	第2ステージ 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	第3ステージ 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする	管理職	トップリーダーとして教育活動を推進する		
資質・能力に関する観点		資質・能力に関する観点					資質・能力に関する観点		
素養	教育的愛情 使命感 責任感	・子どものウェルビーイングを高め、豊かな人間性を育む熱意 ・持続可能な社会の創り手を育成する使命感、責任感 ・子どもの命を守る安全教育・危機管理の理解				素養	教育者としての資質	・教育者としての素養を磨き、教職に関する見識を高める姿勢 ・学校教育の持続的改善に向けた保護者や地域、関係機関との信頼関係の構築	
	倫理観 人間性 社会性	・服務規律・法令の理解と遵守 ・確かな人権意識と豊かな人間性 ・多様性への理解と円滑なコミュニケーションによる良好な人間関係の構築					マネジメント能力	・明確な教育理念、状況に応じた的確な判断、迅速で合理的な決断 ・学校教育を取り巻く環境の変化への適応、教育資源の開発・活用	
	学び続ける力 探求心	・学校現場の実態や教育改革の動向の把握、社会の変化を前向きに受け止めよりよい教育活動を模索する態度 ・自らの実践を省察し、探究心をもって挑戦し続ける姿勢 ・学びの機会への積極的参加による新しい知識や多様な価値観の獲得と得意分野や強みの伸長					アセスメント能力	・内外環境に関する情報の収集・整理、データや理論に基づいた分析、関係者との共有 ・多様な人材の能力や特徴、価値観の理解と公正な評価	
	業務改善	・効率的な時間管理に対する意識	・精選・改善・創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と勤務時間の適正な管理 ・心身の健康、モチベーションを高めるワーク・ライフ・バランスの実現				ファシリテーション能力	・多様な専門性等を有する人材が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保 ・保護者や地域、関係機関や産業界等との折衝・協働による相互作用の促進	
	同僚性	・支え合い高め合う同僚性への理解 ・OJTや校内研修の意義の理解	・協働的活動への積極的参加による同僚性の構築 ・組織における自らの役割の理解と行動	・支え合い高め合う同僚性の構築、学び合う文化の醸成 ・OJTや校内研修の推進、若手教員への助言	・支え合い高め合う同僚性、学び合う組織づくりを牽引 ・組織マネジメントへの主体的な参画		学校経営者としての専門性	経営方針提示	・学校の置かれた状況や教育課題の把握と明確な経営ビジョンの提示 ・経営ビジョンの教職員との共有、地域や保護者への発信による連携・協働の促進
	連携・協働	・子どもや保護者と教職員の相互理解の重要性の理解	・保護者や地域との信頼関係の構築 ・学校内外の多様な人々との連携・協働、関係機関との連携を通じた課題解決への姿勢					教育活動の推進	・教育課程および教育活動の評価・改善と組織的な学校運営による特色ある学校づくり ・多様な子どもに対する個別最適な支援の工夫、多様な教育的ニーズへの組織的対応
	養護教諭の専門領域	保健管理	・児童生徒の健康状態等の把握と保健管理に関する基礎的な知識	・児童生徒の心身の疾病や障がいに対する理解と適切な対応	・保健管理の組織的対応について校内の連携体制を整備			・保健管理の組織的対応ができるように、校内の連携協働を推進	組織づくり
保健教育		・養護教諭の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識・技能	・自校の保健教育の計画立案に参画し、児童生徒に指導	・児童生徒の実態に基づいた保健教育を実践	・学校全体の実態から課題を把握し、自校のカリキュラム・マネジメントに対しての適切な提案	人材育成		・教職員の自律的な成長や中核となる人材の育成を意識した業務の割当、適正な評価と指導・助言 ・教職員の自律的な学びを促す校内研修の推進 ・対話に基づく教職員の意欲の喚起とキャリアパスへの助言、一人ひとりに応じた研修等の受講奨励	
健康相談		・児童生徒の発達段階に伴う疾患及び健康相談に関する基礎的な知識	・健康相談のプロセスを理解し、児童生徒の健康課題について、教職員と連携、早期対応	・児童生徒の健康課題について、保護者や専門家と連携し、校内相談体制を整備	・教職員全体の専門性を高める校内研修を企画、運営し、校内相談体制の充実	働き方改革の推進		・学校・教員の業務の適正化、保護者や地域の理解を得るための取組 ・ワーク・ライフ・バランスの推進、教職員の勤務時間管理やメンタルヘルス確保等による労働安全衛生管理の実現	
保健組織活動		・保健組織活動に関する基礎的な知識	・教職員及び学校三師と連携し、保健組織活動の企画、運営に参画	・効果的な保健組織活動を実践し、適切に評価、改善	・近隣の学校や関係機関と情報交換を行い、地域レベルでの保健組織活動の推進	学校安全・危機管理		・服務規律・法令遵守の教職員への啓発と徹底 ・様々な危機に対する未然防止策の策定による組織体制の整備、保護者・地域・関係機関との協力関係の構築	
保健室経営		・養護教諭の役割及び保健室の機能に関する基礎的な知識	・児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を立案、実践	・児童生徒の健康課題に応じ、校内組織を活かした保健室経営を実践	・児童生徒の健康課題の分析方法や保健マネジメントについて若手教員等に指導・助言	財務管理		・学校経営方針に基づく予算編成と執行による教育環境の整備・充実 ・事務職員と連携した組織的で適正な執行管理	
生徒指導	子どもの発達を支える働きかけ	・子ども一人ひとりのよさや可能性を伸ばす姿勢 ・認め合い励まし合い支え合う集団づくりと個別の子どもの状況に応じた配慮への理解	・子ども一人ひとりへの共感的理解とよさや可能性を伸ばす姿勢、子どもの自己指導能力の獲得を目指した支援 ・子ども一人ひとりが自己存在感を感じ、個性を発揮できる相互扶助的で共感的な人間関係の育成と集団づくり ・子ども一人ひとりの自己実現やキャリアデザイン力の育成を目指した教育活動の充実			ICT活用等	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成	
	課題の未然防止・早期発見 困難課題への対応	・課題未然防止教育の理解 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進		活用指導力の向上と教育活動の充実	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	
	特別支援教育に関する専門性	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解 ・特別支援教育や障がいの特性、合理的配慮への理解 ・障がいに応じた支援に関する基本的な知識	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまずきや困難の早期発見と適切な援助・指導	・障がいの状態に応じた具体的な支援に関する知識・技能の習得 ・多様な教育的ニーズの把握と合理的配慮の提供	・特別支援教育に関する最新の知識の習得 ・個別的教育支援計画等に基づく連続性のある支援、保護者や関係機関との連携		引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解 ・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進	
ふくいのか	全ての子どもが安全・安心な居場所づくり	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまずきや困難の早期発見と適切な援助・指導			「ふるさと福井」の教育	・福井の産業・歴史・文化等への理解 ・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成		
	特別支援教育に関する専門性	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解 ・特別支援教育や障がいの特性、合理的配慮への理解 ・障がいに応じた支援に関する基本的な知識	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまずきや困難の早期発見と適切な援助・指導			福井の教育の継承	・福井の教育をよりよくしていく心と態度 ・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進		
	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進	引き出す教育・楽しむ教育	・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫		
活用指導力の向上と教育活動の充実	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進	「ふるさと福井」の教育	・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進			
引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進	福井の教育の継承	・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化			

※ 資質・能力に関する6つの観点「素養」「養護教諭の専門領域」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」「ふくいのか」は相互に関連し合っている。



福井の教員が目指す育てたい人間像

○個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人

○多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

○ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人

福井が求める教師像

●校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

●専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

●子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

●教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

福井県教員育成指標

栄養教諭		福井県が求める採用時の姿	第1ステージ 教員としての基盤を固める	第2ステージ 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	第3ステージ 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする	管理職	トップリーダーとして教育活動を推進する		
資質・能力に関する観点		資質・能力に関する観点					資質・能力に関する観点		
素養	教育的愛情 使命感 責任感	・子どものウェルビーイングを高め、豊かな人間性を育む熱意 ・持続可能な社会の創り手を育成する使命感、責任感 ・子どもの命を守る安全教育・危機管理の理解				素養	教育者としての資質	・教育者としての素養を磨き、教職に関する見識を高める姿勢 ・学校教育の持続的改善に向けた保護者や地域、関係機関との信頼関係の構築	
	倫理観 人間性 社会性	・服務規律・法令の理解と遵守 ・確かな人権意識と豊かな人間性 ・多様性への理解と円滑なコミュニケーションによる良好な人間関係の構築					マネジメント能力	・明確な教育理念、状況に応じた的確な判断、迅速で合理的な決断 ・学校教育を取り巻く環境の変化への適応、教育資源の開発・活用	
	学び続ける力 探求心	・学校現場の実態や教育改革の動向の把握、社会の変化を前向きに受け止めよりよい教育活動を模索する態度 ・自らの実践を省察し、探究心をもって挑戦し続ける姿勢 ・学びの機会への積極的参加による新しい知識や多様な価値観の獲得と得意分野や強みの伸長					アセスメント能力	・内外環境に関する情報の収集・整理、データや理論に基づいた分析、関係者との共有 ・多様な人材の能力や特徴、価値観の理解と公正な評価	
	業務改善	・効率的な時間管理に対する意識	・精選・改善・創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と勤務時間の適正な管理 ・心身の健康、モチベーションを高めるワーク・ライフ・バランスの実現				ファシリテーション能力	・多様な専門性等を有する人材が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保 ・保護者や地域、関係機関や産業界等との折衝・協働による相互作用の促進	
	同僚性	・支え合い高め合う同僚性への理解 ・OJTや校内研修の意義の理解	・協働的活動への積極的参加による同僚性の構築 ・組織における自らの役割の理解と行動	・支え合い高め合う同僚性の構築、学び合う文化の醸成 ・OJTや校内研修の推進、若手教員への助言	・支え合い高め合う同僚性、学び合う組織づくりを牽引 ・組織マネジメントへの主体的な参画		学校経営者としての専門性	経営方針提示	・学校の置かれた状況や教育課題の把握と明確な経営ビジョンの提示 ・経営ビジョンの教職員との共有、地域や保護者への発信による連携・協働の促進
	連携・協働	・子どもや保護者と教職員の相互理解の重要性の理解	・保護者や地域との信頼関係の構築 ・学校内外の多様な人々との連携・協働、関係機関との連携を通じた課題解決への姿勢					教育活動の推進	・教育課程および教育活動の評価・改善と組織的な学校運営による特色ある学校づくり ・多様な子どもに対する個別最適な支援の工夫、多様な教育的ニーズへの組織的対応
	栄養教諭の専門領域	給食管理 学校給食の栄養管理	・学校給食の役割に関する基礎的な知識 ・学校給食実施基準に基づいた献立作成への理解	・児童生徒の栄養摂取状況を把握し、地域や学校の特色に応じた献立の作成	・児童生徒の栄養摂取状況を分析し、家庭や教職員等と連携した栄養管理の実践			・児童生徒の栄養摂取状況分析方法や、適切な栄養管理について若手教員等に指導・助言	組織づくり
給食管理 学校給食の衛生管理		・衛生管理の基礎的な知識と理解	・学校給食衛生管理基準に基づいた日常点検等について、調理従事員に指導・助言	・学校給食施設に応じた衛生管理の改善について、教職員、調理従事者等に指導・助言	・学校給食における衛生管理に関して、地域レベルで関係者に対し指導・助言	人材育成		・教職員の自律的な成長や中核となる人材の育成を意識した業務の割当、適正な評価と指導・助言 ・対話に基づく教職員の意欲の喚起とキャリアパスへの助言、一人ひとりに応じた研修等の受講奨励	
食に関する指導 給食の時間・各教科等		・学習指導要領に基づいた学校における食育に関する基礎的な知識	・児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する指導の全体計画の立案に参画、ならびに指導や情報提供	・児童生徒の食に関する実態から課題を把握し、食育を学校全体で組織的に推進	・児童生徒の食に関する課題、地域の実状等をもとに、家庭と連携した地域レベルでの食育を推進	働き方改革の推進		・学校・教員の業務の適正化、保護者や地域の理解を得るための取組 ・ワーク・ライフ・バランスの推進、教職員の勤務時間管理やメンタルヘルス確保等による労働安全衛生管理の実現	
個別指導 個別の相談指導		・個別的な相談指導の基本的なプロセスに関する基礎的な知識 ・食に関する健康課題(偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等)への理解	・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた指導	・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた個別取組プランの作成、実践	・児童生徒の食に関する健康課題について、専門医等の関係機関と連携し、実態に即した指導・助言	学校安全・危機管理		・服務規律・法令遵守の教職員への啓発と徹底 ・様々な危機に対する未然防止策の策定による組織体制の整備、保護者・地域・関係機関との協力関係の構築	
生徒指導	子どもの発達を支える働きかけ	・子ども一人ひとりのよきや可能性を伸ばす姿勢 ・認め合い励まし合い支え合う集団づくりと個別の子どもの状況に応じた配慮への理解	・子ども一人ひとりへの共感的理解とよきや可能性を伸ばす姿勢、子どもの自己指導能力の獲得を目指した支援 ・子ども一人ひとりが自己存在感を感じ、個性を発揮できる相互扶助的で共感的な人間関係の育成と集団づくり ・子ども一人ひとりの自己実現やキャリアデザイン力の育成を目指した教育活動の充実			財務管理		・学校経営方針に基づく予算編成と執行による教育環境の整備・充実 ・事務職員と連携した組織的で適正な執行管理	
	課題の未然防止・早期発見 困難課題への対応	・課題未然防止教育の理解 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進				
	特別支援教育に関する専門性	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解 ・特別支援教育や障がいの特性、合理的配慮への理解 ・障がいに応じた支援に関する基本的な知識	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考え方に基づく、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまずきや困難の早期発見と適切な援助・指導	・特別支援教育に関する最新の知識の習得 ・個別の教育支援計画等に基づく連続性のある支援、保護者や関係機関との連携	・学校を取り巻く環境や特別支援教育に関する課題の把握と組織的な支援の調整				
ICT活用等	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解	・個別最適な学び・協働的な学びの実現による子どもの問題発見解決力・自己調整力の育成 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成						
	活用指導力の向上と教育活動の充実	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	・ICT活用指導力の向上とICTの特性や強みを活かした多様な学習形態や専門性の高い教育活動の実現 ・学習履歴や健康上・生徒指導上のデータ等の蓄積・利活用による学習支援・校務の効率化						
ふくいのか	引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解	・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進		・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫				
	「ふるさと福井」の教育	・福井の産業・歴史・文化等への理解	・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成		・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進				
	福井の教育の継承	・福井の教育をよりよくしていく心と態度	・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進		・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化				

※ 資質・能力に関する6つの観点「素養」「栄養教諭の専門領域」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」「ふくいのか」は相互に関連し合っている。

1 福井県教員育成指標

(1) 福井県教員育成指標とその活用について

① 策定の経緯

平成28年の教育公務員特例法の改正により、校長および教員の職責、経験、適性等に応じて向上を図るべき資質・能力に関する指標の策定が義務付けられた。

グローバル化、情報化の進展等、社会が急速に変化するとともに先行き不透明で予測困難な時代が到来する中で、教師は変化を前向きに受け止め、自律的かつ継続的に学び続け、子どもの学びを支援する伴奏者としての役割を果たさなければならない。

これらの背景の下、令和4年には「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」（以降「指針」）が改正され、教師に求められる資質・能力の観点として次の5つの柱が示された。

<資質・能力の5つの柱>

- 教職に必要な素養
- 学習指導
- 生徒指導
- 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応
- ICTや情報・教育データの利活用

本県においては、指針や生徒指導提要、教育に関する大綱（以降「教育大綱」）を踏まえ、平成29年に福井県教員育成指標（以降「本県指標」）を策定し活用してきたところであるが、指針の改正や令和6年10月の教育大綱の改訂を受け、再整理を行った。

② 策定当初からの特徴

本県指標は、教育大綱に示す「福井の教育が目指す育てたい人間像」、加えて「福井が求める教師像」を明示した上で、資質・能力の観点や成長段階のステージと、そこに対応した具体的な指標で構成している。その指標を基に、採用時から教職生活全体を通じて「学び続ける人」であることを教師に求めてきた。

各ステージは、「本県が求める採用時の姿」から始まり、第1ステージ「教員としての基盤を定める」、第2ステージ「中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する」、第3ステージ「経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする」と、経験や役割に応じて10年を目安に位置付けた。

また、管理職に求められる資質・能力は教諭等のそれとは大きく異なるものとして指標を分けて策定し、校長のみならず教頭が意識する指標としても意義のあるものと捉え「管理職」の指標として活用してきた。

加えて、教諭等と管理職の指標を1枚にまとめることにより、管理職は「先生方が、学校の目指す教育、福井が目指す教育を実現するための資質・能力を高められているか」を考慮することができ、管理職を目指す教員は「管理職にはどのような資質・能力が求められるのか」見通しを持つことができるものになっている。

③ 再整理のポイント ～より活用しやすく、「協働」を重視した指標へ～

令和6年度に本県指標を再整理するにあたり、教諭版を中心に次の点をポイントとした。

まず、指針の改正において示された相互に関連する5つの柱を資質・能力の観点とすること、併せて、各指標が具体的すぎない汎用性のあるものにするこゝとで、変化の激しい現代社会における指針としてより活用しやすいものとした。加えて、「ふくいのか」のみを本県独自の観点とし、本県の教師として高めてもらいたい資質・能力を強調した。

そして、現代社会の中で子どもの学びを支援するためには、教師の専門性向上や環境づくりにおいて、これまで以上に「協働」が重要となる。この点は、指針改正において、コミュニケーションや同僚性、連携・協働という要素が「教職に必要な素養」の中に位置付けられていることから見て取れる。また、協働すべき対象は勤務校の教職員のみならず、他校種も含めた他校の教職員、保護者や地域住民、大学や教職大学院、関係機関、産業界と幅広い。

そこで、素養の中に「同僚性」「連携・協働」という項目を、素養以外の観点においても“連携”“協働”“組織”“チーム”といった内容に関する指標を位置付けた。教員個々の強みや専門性がばらばらに発揮されるのではなく、教員同士や様々な役割や立場の人々と協働する中で、それぞれの力が相互に作用することで大きな効果を生み、時には互いの弱みを補完し合うことが重要である。この協働は、支え合う同僚性や学び合う文化が醸成された環境があって実現できるものであり、教師が孤立する状況をつくらぬことにもつながる。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け“子どもたちと共に授業や活動をつくっていく”という意識が持てるよう、学習指導においては“支援”“見取る”“引き出す”“つなぐ”といった内容に関する指標を位置付けた。これは、子どもたちを協働する対象として捉えているということでもある。

④ 研修における活用

指標は資質・能力の向上の一つの指針として各々が日々意識すべきものであり、特に研修の場は自身の資質・能力を振り返るよい機会となる。そこで、本県研修における指標の活用について、校外研修と校内研修に大別して説明する。

<校外研修における活用>

基本研修・職務研修について本県指標に基づいた内容構成にしていることはもちろん、選択研修も本県指標と関連付けて計画している。その上で、各研修の手引きや要項、資料等に資質・能力のどの観点や内容と関係が深いのかを明記する。研修当日には、関連の深い指標について説明し、振り返りの視点にすることも含め、指標の意識化の促進を図っている。

<校内研修における活用>

教員が自律的かつ継続的に学ぶためには、校内研修の充実、延いては校外研修と校内研修が有機的に機能することが重要となる。各校で実施する校内研修においても、指標を一つの指針として内容や実施方法を検討してもらいたい。そして、他校や関係機関とも連携しながら、校長のリーダーシップの下で校内研修を充実させ、学校の教員集団を学び合う専門職集団にすることが、教師の資質・能力を培う基盤となる。